

新潟県 公民館月報

KOMINKAN GEPPPO

9

September 2015
No.751



きっかけの一步 ブラ・タムラ(三条市)

まち歩きの人 田村栄一さんと一緒に越後三条 小路百選を巡りました。

4~5

特集

「みんなのまちはみんなで創ろう!」 ~NPOの挑戦 情報と人と
資金の新しい流れを創る~

秋山三枝子

CONTENTS

- | | | |
|---|----------------------------|--|
| 2 | トピックス | 本紙 後期編集について |
| 3 | 視点
ひろば | 「地域と連携協働する公民館」 新津地区公民館運営審議会委員 渡辺 和典
「大人の姿をみて学ぶ大切さ」 津南町社会教育委員 江村かおる |
| 6 | 実践記録シリーズ | 「郷育(きょういく)のまち・村上」を目指して~学校と地域を結ぶ~ NPO法人都岐沙羅パートナーズセンター |
| 7 | サークル交流
素顔拝見 | 「続けることの思い」(十日町市) / 「和気あいあいと楽しいダンスをモットーに」(新発田市)
上野 啓さん(新潟市) / 酒井 香織さん(村上市) |
| 8 | お元気ですか
恵贈資料紹介
ネットワーク | 「二度目の栗島勤務」 栗島浦村・川村三千男さん |

TOPICS

本紙 後期編集について

本年度の本紙の編集については、第1回編集委員会(6月26日開催)において

- 1 紙面構成
 - 2 編集内容と写真多用
 - 3 原稿執筆原則
 - 4 原稿執筆市町村順
 - 5 新紙面構成
- 等が協議され決定しています。



今年度の編集委員は、各地区から選出された8名で構成されています。

〈編集委員〉

- 編集長 田原 理(事務局)
- 委員 大坪 美樹(上越市)
- 長谷川健康(三条市)
- 佐藤 了(出雲崎町)
- 渡辺佳津志(聖籠町)

船山 靖子(新潟市)

吉田奈津子(新潟市)

小林 朋広(県推進セ)

*新任

- 会議では、1〜5について活発な意見交換がなされ
- 紙面構成はバランスがとれている。
- 実践シリーズは集約版を発行せず(予算不足が理由)、ホームページに掲載する。
- 特集は毎回充実している。
- 写真を多用することはわかりやすく好評である。
- 「編集長のつぶやき」は依然好評である。
- 記事の執筆順はローテーションを守る。
- カラー印刷は好評である。
- 新紙面構成は了解である。
- 以上のことから、紙面構成は現状を維持する方向で編集することになりました。
- 前期の残り(後期(10月)の執筆割当は次のとおりです。来年度・後期の割当は2月開催の第2回編集委員会で検討されます。

平成27年10月〜28年9月

月 号	表 紙	ひろば	サークル交流		素顔拝見		お元気ですか
H27年 9月	三 条 市	津 南 町	新発田市	十日町市	村 上 市	新 潟 市	栗島浦村
10月	田 上 町	魚 沼 市	柏 崎 市	新 潟 市	津 南 町	長 岡 市	三 条 市
11月	出雲崎町	見 附 市	十日町市	阿賀野市	湯 沢 町	糸魚川市	加 茂 市
12月	刈 羽 村	新発田市	小千谷市	三 条 市	南魚沼市	村 上 市	阿 賀 町
H28年 1月	上 越 市	新 潟 市	加 茂 市	栗島浦村	聖 籠 町	燕 市	新発田市
2月	新発田市	小千谷市	村 上 市	妙 高 市	阿 賀 町	三 条 市	聖 籠 町
3月	十日町市	阿 賀 町	見 附 市	湯 沢 町	刈 羽 村	新 潟 市	長 岡 市
4月	胎 内 市	長 岡 市	新発田市	上 越 市	南魚沼市	柏 崎 市	十日町市
5月	柏 崎 市	関 川 村	燕 市	新 潟 市	上 越 市	胎 内 市	田 上 町
6月	弥 彦 村	南魚沼市	糸魚川市	阿 賀 町	加 茂 市	魚 沼 市	新 潟 市
7月	津 南 町	五 泉 市	佐 渡 市	魚 沼 市	新 潟 市	妙 高 市	湯 沢 町
8月	糸魚川市	聖 籠 町	長 岡 市	新発田市	佐 渡 市	阿 賀 町	妙 高 市
9月	見 附 市	新 潟 市	上 越 市	胎 内 市	五 泉 市	新発田市	出雲崎町

公民館月報 平成27年度「特集」テーマ・執筆者・担当者

月 号	テーマ・執筆者	担当者
9月(751号)	特別寄稿 秋山三枝子 NPO法人理事・県議会議員	上 越
10月(752号)	県大会を振り返って 大会実行委員会	下 越
11月(753号)	全国公民館研究集会参加レポート	中 越
12月(754号)	座談会1 ベテラン編(市民)	新 潟 市
1月(755号)	座談会2 若者編(市民)	上 越
2月(756号)	新年度に向けて 新潟市(県公連副会長)	新 潟 市
3月(757号)	全国セミナー参加レポート	事務局長

「新潟県公民館月報」 毎月 15 日発行

いつでも申込み受付中

公民館月報 定価1部160円 年間1,920円(いずれも送料含む)

申込先 〒950-2004 新潟市西区平島1301番地 中野プラザ107 新潟県公民館連合会 TEL・FAX025-266-7711



「大人の姿をみて 学ぶ大切さ」

津南町社会教育委員
江村かおる



「私の家には、針がないかも。」
小学生を集めた手芸教室でこの言葉を聞きました。お家でも作ってごらん、と声をかけた時の一年生の答えです。えっ？針がないの？いえ、きつと針が無いのではなく「針仕事」を見たことが無いのでしょうか。

以前はどここの家庭でも縫い物をしている光景がありました。そんな母親の姿を見ていた子どもたちは、自然と縫う仕草や手順を学んでいたように思います。身近に縫い物を見た事の無い子どもは針を持たせても針の進む方向がわからない。針を持つ手をひねって左から右へ縫おうとしていました。そうですね、見た事がないから作業をイメージ出来なかったのでしょうか。

中であつた数々の手仕事に接する機会がとてもなくなくなっています。大人の手仕事をみて得られる知識や発想は、生きる力になるのです。家族や地域の皆さんがいるんな姿を子どもたちに見せてあげられるといいですね。子どもたちと一緒に作業する場所に、公民館というスペースも便利だと思いますよ。

視点



新津地区公民館運営審議会委員
渡辺 和典

「地域と連携協働する公民館」

「戦後70年」という言葉を新聞、テレビ雑誌などで見聞きします。公民館は昭和21年にできたと言いますからほぼ時を同じくし今日に至っています。戦後の復興を担い、生涯学習などを中心に地域の活性化に貢献し、その役割を果たしてきました。

最近是一段と社会の変化が加速しています。少子高齢化、人口減少、価値観の多様化に伴い公民館活動も新たな局面を迎えました。公民館主催の様々な活動や講座などは、参加者の高齢化・固

定化さらには人数の減少が進み大きな課題となっています。新潟市においては、政令指定都市誕生とともにコミュニティ協議会が各地域に発足しました。しかし、公民館が担う生涯学習の振興は最も大きな使命であり今後も変わることはないと考えます。「不易と流行」という言葉がありますが、生涯学習はまさに「不易」の部分です。複雑化し絶え間なく変化して行く社会、また超高齢化社会が進む中

にあつて、益々多種多様な学習内容と機会が求められます。(この辺は「流行」の部分でしょうか。)子供や若者も含めた教育や学習、文化芸術活動の一層の推進は地域の「人づくり・元気づくり・夢づくり」に繋がります。そのためにも公民館が学校や地域のコミュニティ協議会などに出向いて行くことも一つの方策かと思えます。学校では長期休業中や総合的な学習と関連付けた出張イベント、コミュニティ協議会では地域に根差した継続的な事業などを、連携し協働してやるのではないでしようか。

お互いに課題を整理し、協働のあり方を考え話し合う場が必要です。当地区の公民館では、関係機関と課題を話し合い連携協働による事業の成功例が出てきています。

掲示板 HOT NEWS



当会のホームページが公開中です。かねてから、作成作業を進めていた「新潟県公民館連合会」のホームページはトップページを新たにして6月から本格

的に公開中です。

主な情報は次のとおりです。

- 1 役員一覧
- 2 県内全市町村公民館名鑑
- 3 過去の公民館月報
- 4 過去の実践シリーズ
- 5 各地区の活動
- 6 トピックス

インターネットで「新潟県公民館連合会」を検索すると簡単にアクセスできます。

ホームページ公開中

事務局では、各地区の活動を情報として公開します。活動写真を添えて事務局にお寄せください。

<お詫び>

前号8月号の掲示板に掲載した「県大会永年勤続者表彰受賞者」の氏名が1名欠落していました。お詫びして修正いたします。

受賞者 中澤 朝子
(糸魚川市大野地区公民館)

特集

「みんなのまちはみんなで創ろう！」～NPOの挑戦

情報と人と資金の新しい流れを創る



くびき野NPO
サポートセンター理事
新潟県議会議員

秋山三枝子

1 はじめに

戦後70年を経て日本は今、人口減少、超高齢化の時代に入り、高度経済成長時代に身にまとった余分なものをスリム化する作業に追われています。地域の中では市民ひとり一人が、「できることは自分たちでやる」自立の方向に向かって動き始めました。

この変革の時代にあつて、学び、気づき、行動することの大切さは言うまでもありません。公民館活動はその最前線に立ち、時代の要請に応える内容に努めていくことが求められています。

社会教育委員として10年間、上越市の公民館活動現場に足を運び、変わり目に立ち会ってきました。全国の津々浦々で新たな挑戦が始まっていることを知りました。変わることは痛みを伴い、困難も避けては通れません。

地域の自立に向けて少しでも参考になればと、私に関わってきたNPOの事例を紹介します。

2 一歩ふみだす

公民館の歴史に比べて、まだ17年しか経っていない

いNPO法人制度です。数こそ増えたものの社会の認知はまだまだ低い状況、それでも各地で様々な分野で重要な役割を担うNPO法人がたくさん見受けられるようになりました。

社会の課題に気付いた人が解決に向けて行動する、そのひとつの形としてNPO法人があります。

くびき野NPOサポートセンターは「団体支援」という分野で、独自の道を切り開いてきた団体です。

平成10年の設立趣旨書には以下のような言葉が記されています。

〔前略〕現実には少子高齢化、福祉、教育、環境、その他の問題が山積みになっています。解決するためには、一人ひとりが自分自身で考え、自発的な行動をすることが求められています。(中略)そうした自発的な行動や、社会に対してやりたいことを自由と責任のもとに行動できる受け皿がNPOだと思っています。私たちはNPOを様々な角度から支援する目的で「くびき野NPOサポートセンター」を設立します。(後略)〕

さてここからが、いばらの道の始まりでした。

3 石の上にも3年

誰もがNPOという言葉を知らない中、とにかくNPOを知ってもらうために地域を走り回りました。主な対象は上越地域の20市町村、現在は合併して3市になっていますが、当時は競っておらが町の特色を打ち出していました。やる気のある自治体とNPO

が協力すれば、将来の地域社会は大丈夫！と夢中で語り、押しかけてはNPO講座をやっていました。

外むけの普及とともに、くびき野NPOサポートセンター自身の組織づくりも待ったなしです。自発的な民間組織のため公的支援は無く、人も資金も場所も自力で集めなければなりません。会員を募り、カンパをお願いし、3年目ようやくパートスタッフを雇用することができました。とても大変でしたが、この間に築いた地域との信頼関係が、現在の活動の基礎体力に繋がりました。

4 新しい情報発信のカタチ NPO PRESS

団体の情報発信といえば、チラシ配布やネット配信、新聞等でのイベント告知などがありますが、NPO自身がNPO情報を取材、新聞紙面を責任編集するという取り組みが、平成11年に始まりました。企業(上越タイムス社)が紙面提供し、NPO(くびき野NPOサポートセンター)が責任編集するというものです。

当初は物議を醸していました。信頼関係を保ちながら16年間続いて



NPO PRESS

います。編集に関わる経費は自己調達のため、広告依頼の企業訪問も行い、世間の厳しさに晒されながら企業との繋がりを深めてもいます。

5 人と人が繋がり新たな動きを生む 「くびき野市民活動フェスタ」

「実行委員会に参加して、統一チラシ作りや資金集め、運営も役割分担」という、参加者に負荷がかかる市民活動フェスタですが15年間続いていきます。

平成12年、初めての実行委員会、顔を合わせた約30名の参加者の年齢・職種はバラバラ。「予算は？」、「どこでやるのか？」、「リーダーは誰か？」など質問が相次ぎます。「予算はありません」「場所もリーダーもみんなで決めます」と答え、「活動を広く市民にアピールする」「実行委員会を通じて繋がる」「自立を図る」という目的を掲げてフェスタが動き始めました。

以降毎年春に、事務局を務めるくびき野NPOサポートセンターが団体に呼びかけ、応じた参加者全員で実行委員会を構成、委員長を決め、そこからその年ごとの特色あるフェスタが始まります。

統一チラシの配布

効果は？企画がマンネリ？顔ぶれもマンネリ？などの課題を克服しながら引き継がれています。最近ではフェスタ経験者が独自にイベントを企画しフェスタ以上の集客を生むなど、新たな展開を見せはじめ、フェスタも次の段階に入る時期にき



フェスタ

ています。

6 寄付の循環を創る「にいがたNPO基金」

「市民や企業からの寄付をNPOの活動資金として循環するしくみづくり」は一番むずかしい課題でした。平成18年に民間財団の助成を得て研究会がスタート、翌19年によろやく上越地域で「くびき野ぐるるファンド」が誕生しました。

目玉は「ひとくちファンド」、気軽に寄付できるように千円程度の金額を設定し、団体の事業に寄付をつのります。ネットで盛んにおこなわれているクラウドファンディング(目的別資金調達)に似た先駆的な取り組みでした。

現在は名称を「にいがたNPO基金」として対象を県域に広げ、新潟労働金庫の「NPOサポートファンド」とも連携を図り日常的な寄付の裾野の広がりをめざしています。



NPO 基金助成式

7 公民館とNPO 協働の可能性

ここまで3つの事例を示してきましたが、公民館との関係は、チラシ配置やイベント時の借用などに留まっていました。

ところが平成23年に半年間毎日、公民館を借りてNPO職業訓練を行うことになりました。離職中の人を対象にした国の就労支援事業です。会場の条件がトイレ2か所、駐車場確保などハードルが高く、なかなか見つけれない時、ふと老朽化して利用が少ない公民館が浮かびました。

趣旨を話したところ「大丈夫でしょう」との館長の判断、これでようやく15名の受講生が毎日通う場が確保されました。

事業を始めて気づいたのは、公民館が「学ぶ」ことにとてもふさわしい会場だった、ということでした。

黒板、廊下、他の教室から流れるコーラス、まさに大人の学校です。様々なタイプの受講生がいましたが、ひとつのクラスとして絆が育まれ無事終了し巣立っていました。

この利用を通じて、公民館の積極的な活用アイデアがいろいろ浮かびました。窓口の職員がいて、駐車場があつて、設備も整っている公民館、もっと稼働したらいいのにと。

8 未来へ

公民館は今、社会教育施設としての機能、又はコミュニケーションセンターとしての役割など、形態が多様です。

変化の時代は多様であることが強さだと感じます。NPO活動を通じて学んだのは、異質なものの出会いが自分を大きく変えること、生み出される効果も大きいことでした。その延長線上に政治参画の決断もありました。

変化の時はチャンスです。公民館がこれまでの既成概念にとらわれることなく、地域に必要とされる情報発信や体験活動の場になることを願って、熱烈応援してまいります。



公民館で基金訓練

実践記録シリーズ

210

「郷育(きょういく)のまち・村上」
を目指して～学校と地域を結ぶ～

NPO法人都岐沙羅パートナーズセンター

村上市は、豊かな自然、歴史、伝統文化などの地域財と、その資源を活かす方たちの活動が盛んな魅力あふれるまちです。

そのようなまちに事務所を構えるNPO法人都岐沙羅(つきさろ)パートナーズセンターは、地域の財(人・知恵・情報・場所など)を集め、人や団体、企業をつなぎ、地域団体の活動を支え、この地域の魅力を地域内外に向けて発信することを通して、村上右船地域(村上・関川村・粟島浦村)で活動されている団体や個人を応援し、地域の元気づくりに取り組む中間支援組織です。

私たちの活動を象徴するようなイベント「第10回学校と地域を結ぶオープンセッション」が、村上市教育委員会、実行委員会と共同で8月6日に開催されました。記念すべき第10回目となった今回は、郷育に関する考え方や取り組み等について多くの方々を理解していただくために、参加者の方々とともに学び、考え、行動につなげる1日でした。

シンポジウムでは、「郷育への提言」をテーマに、学校の視点、地域の視点、まちづくりの視点、社会教育の視点と3者から、郷育についての考え方やその重要性、具体的な活動事例をお話しいた



オープンセッション・シンポジウム

だきました。

また、様々な取り組みを行っている地域の機関や団体がブースを構え、学校関係者の方々がブースを回りながら情報収集することでも様々な活動を知り、実際にどのように学校のカリキュラムへ取り入れていけるか、子どもたちとの接点を設けることができるのかについて考え、情報交換とマッチングを行う交流の機会をつくりました。各地区公民館や青少年健全育成会、まちづくり協議会などの方々にも展示等でご協力いただき、村上で子どもたちのための活動が活発に行われていることを改めて認識していただくとともに、新たな展開が生まれる可能性を秘めた種が、たくさん蒔かれました。

併せて、大人たちが郷育について学び交流している間、子どもたちを対象とした「むらかみあそびのひろば」というイベントを開催しました。こちらは、郷育の実践編で、地域団体が提供しているプログラムを



活発な情報交換



大勢の人がブースをまわり交流

実際に子どもたちが体験しました。参加した村上の小学生約50名はお金についての講義を受けた後、会場内で使える架空のお金をおこづかいとしてもらい、様々な体験ブースを回ります。スポーツ体験やスイーツづくり、紙芝居、畳コースターづくり、防災避難体験などに参加しました。お金の使い方や貯金の大切さなど身をもって学んだ子どもたちは、楽しく体験しながら、地域の人とふれあい、村上にあふれる魅力を体感する機会となりました。

このイベントを通して、たくさんの人と人、団体が出会い、情報飛び交う中で様々な可能性が生まれました。「地域の子どもは地域みんなで育てる」という思いをひとつにした会場で、私たち中間支援組織が「つながり役割」として関わったことを大変嬉しく感じると同時に、これからは今回つながった線が太く、長く、強い絆で結ばれるよう「支える」活動に取り組んでいきたいと思います。



新潟県社会教育委員
能登谷愛貴



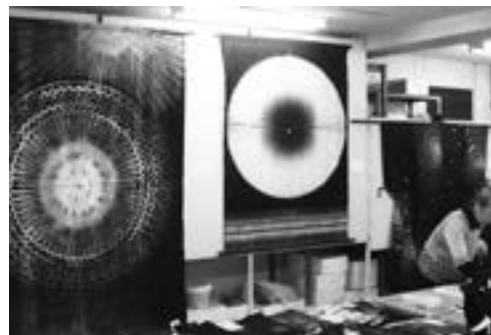
市内の畳屋さんによる畳コースターづくり



続けることの思い

絞り藍遊夢

平成3年、十日町地域地場産業振興センター（クロスステンの人材養成事業で「絞り藍染めの技術の習得」に触れ、その魅力に取りつかれた面々が会を発足、25年になりました。これまで、市展、県展、工芸展の出品や地元イベントへ参加し、地元染織の街・十日町をアピールしながら様々な方々と交流しています。絞り藍染めの魅力は、絞り方や染め方で失敗することもあり、新しい感覚を発見することです。だからやめられません。和気あいあいとモノ



づくりを行い、次の世代にもその魅力を伝えてゆきたいと日々針と糸を進めています。

十日町市・絞り藍遊夢

松井 俊明 記

和気あいあいと楽しいダンスをモットーに

豊浦ダンスクラブ

クラブができて37年「あの頃は若かったな」でも今もちつとも変っていない、リズムに乗って踏むステップは昔と同じ。会員の親睦と心身の訓練を目指し、リズムに乗って踊り、ステップを覚え、その楽し

さを満喫することを目的としてこの社交ダンスのクラブは発足しました。

年3回ほどステージやダンスパーティーで発表する場もあり、それを目標に練習にも熱が入ります。その他納涼会や忘年会等の親睦会、年1回のクラブ主催のダンスパーティーも計画、中高年ながらもまだまだ元気いっぱい活躍しております。これからも毎週木曜日の夜、坂井与志一先生の指導の下、「健康で楽しいダンスを」これが会員みんなの願いです。



新発田市・豊浦ダンスクラブ
渡辺 淳子 記

新潟市味方地区公民館

館長 上野 啓さん



この4月、新潟市関屋地区公民館から異動。3年目ながら3か所(政令市後3つの区)の公民館勤務となります。ですから地域性や、住民との関わりを大切にされています。通勤時に畑のお婆ちゃんに声をかけたり。「なるべく現場に出たい」とシルバークレッジでは渋い声で毎回司会をこなしています。同事業は、老人憩いの家での芸能発表会。聴衆を含め毎回(毎月)100人を超える人気の居場所事業です。「普段人影を見ないのに」と驚きを隠しません。「いじらずに、今の雰囲気大切にしたい」とも。

ペーパードライバーのため、片道1時間以上のバス通勤ですが「バスの旅を楽しみ、そして人との出会いと味方、何より地域のために仕事をしたい」と語り、普段も「住民目線」を感じます。どうぞよろしくお願いいたします。

(味方地区公民館 主査 笹川 久雄 記)

山北地区公民館

社会教育指導員 酒井 香織さん



山北地区公民館の社会教育指導員の酒井香織さんを紹介いたします。

千葉県から山北に嫁いで12年、社会教育指導員として今年6年目となり、公民館の事業等もベテランで頼れる存在です。

緑の少年団やジュニア英会話教室では、工夫をこらした活動内容で子どもたちからもお姉さんの存在として慕われていますし、高嶺大学でも皆と笑顔で接し、穏やかながらもテキパキと対応し、責任感も強い方です。

本が好きで昼休みは読書、他にも英会話クラブで学習そしてフラダンス等様々なものに挑戦中です。そんな素敵な彼女の今後にますます注目です。

(山北教育事務所 板垣 敦志 記)

素顔拝見



新潟県生涯学習協会は組織を改革して、今春からリ・ニューアルスタートしました。これまで機関誌として会員向けに発行していた「にいがた生涯学習」を一新して、情報・広報誌「にいがた生涯学習ネットワーク」として編集し、このたび創刊号が発行されました。

恵贈資料紹介

にいがた生涯学習ネットワーク／創刊号

内容は以前のものと大きく変えて、県内の社会教育活動団体の紹介などを中心に編集されています。

内容

- ・地域活動キラリ
- ・「折り鶴キャラバン」の開催
- ・「十日町のPRとまちの活性化」
- ・みえる・つながる・つくります
- ・上越市安塚区「全住民参加型」のNPO法人設立
- ・燕市「地域の困りごとサポート」
- ・新潟市西区学校行事に地域住民が参加
- ・ねとわーく
- ・「女のスペースにいがた」

問い合わせ

新潟県生涯学習協会
〒950-0120 04
新潟市西区平島1301番地
TEL・FAX 中野プラザ107
025-266-1120
E-mail: syakyo56@eol.ocn.ne.jp

お・元・気・で・す・か

二度目の粟島勤務

川村三千男
(粟島浦村公民館長)



今年の3月末に学校現場を退職し、現在粟島浦村にお世話になっていきます。粟島浦村はこれで二度目の勤務となります。平成9年以来20年ぶりです。

現在、島の教育関係の仕事に携わっています。その中は学校教育、生涯学習、社会教育、芸術・文化等とありますが、粟島の皆さんにとって、どれも大切な領域だと思っています。

粟島の皆さんはとても温かい人ばかりです。一日中元氣な挨拶が飛び交います。

※お元気でのかのコーナーは場役をリタイアした方がその後にも元氣に活動している様子を紹介するコーナーです。

島の人間士だけでなく、初めて島を訪れた観光客にも声を掛け合います。島を訪れた観光客は、この挨拶に「元氣が出る」そうです。私も毎日元氣を頂いています。

公民館での活動もいろいろあります。春に行った「異文化交流コリアンフード(韓国料理)試食会」は、民宿経営のベテランにも好評でした。これからも、島の皆さんの役に立つもの、島の皆さんが元氣になることを考えて計画していきたいと思っています。島の皆さんが笑顔になるように。

ネットワーク

〈中越地区研修会〉

1 中越地区公民館職員研修会

平成27年9月7日(月)

10:00～南魚沼市塩沢公民館

演習・ワークシヨップ・演習

越村 康英

(千葉大非常勤講師)

2 中越地区公民館長・

主事・公運審等研修会

平成27年10月8日(木)

13:00～三条市中央公民館

講演・山井 太

(株スノーピーク社長)

事例発表・三条市、見附市

農業・農村が日々の生活を支えています

農業・農村は、安全・安心な食料を安定的に供給するとともに、国土や自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承などの多面的な機能を有しています。

本県農業・農村振興の取り組みに対する県民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

新潟県市町村農業農村振興対策協議会

会長(糸魚川市長) 米田 徹

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内

TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

事務局長のつぶやき

先月8月号から紙面構成を大きく変えました。見やすくなったという声が聞こえてきますが皆さんはいかがでしょう。事務局の4人熟女の1人が、昨日からアフリカ旅行に行きました。娘さんが海外青年協力隊

で赴任していることから滅多にないチャンスとばかりに単身で出かけて行きました。エボラ出血熱やテロなどの騒ぎ頻発のアフリカ。しかし、母娘とも怖いもの知らず。勇気は立派ながら、人食い野獣もいるだろうし、あな恐ろし。(田原)